スポーツ庁再委託事業

令和２年度 Sport in Life 推進プロジェクト

（ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業）

「ヴォルティス元気っずプログラム」

事業報告書

令和３年２月

徳島ヴォルティス株式会社

令和２年度 Sport in Life 推進プロジェクト
（ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業）
「ヴォルティス元気っずプログラム
事業報告書

目次

本事業の目的 1
１．本事業の実施概要 3
（１）本事業のターゲット 3
（２）ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説） 4
（３）本事業で期待される効果 5
２．本事業の実施内容 6
（１）事業の実施概要 6
（２）事業の実施結果 7
３．本事業の実施体制 10
（１）本事業の実施体制 10
（２）本事業の実施スキーム 10
４．事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果） 11
（１）効果検証方法 11
（２）効果検証の結果 16
②家庭における生活習慣に関する改善効果 18
５．スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証） 19
６．今後の事業展開予定 22
（１）事業継続や横展開に向けたポイント、課題 22
（２）次年度以降の事業継続、横展開の計画 22
（３）今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組み ... 23
７．終わりに 24
参考資料　アンケート調査結果詳細 25

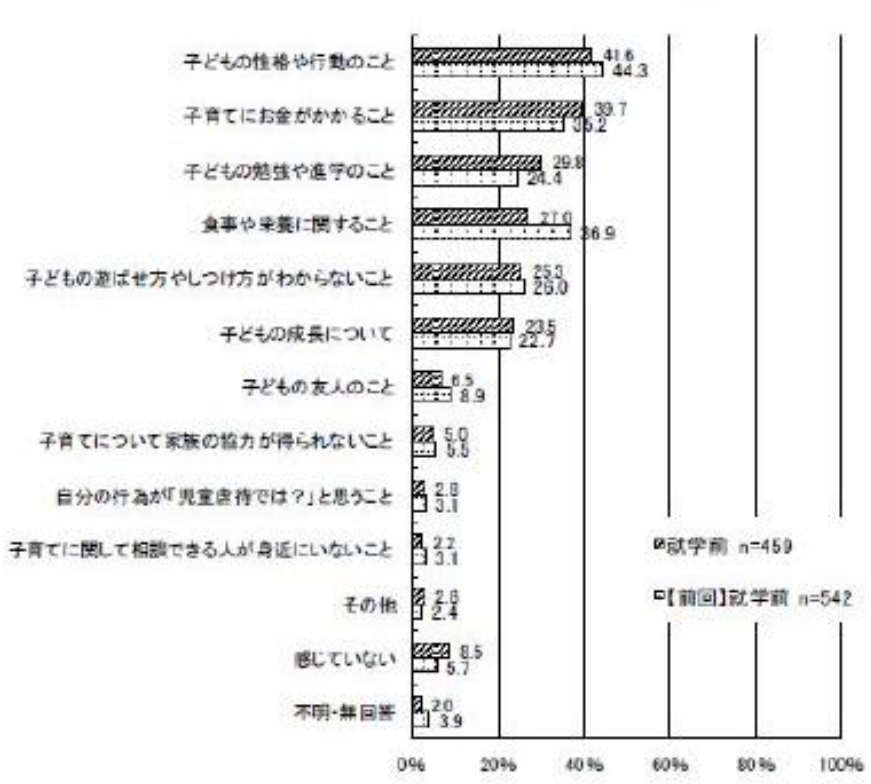
本事業の目的

本事業は、就学前の子どもが様々な遊びを通して、体を動かす楽しさを感じてもらい、生涯の健康増進につなげることを目的としている。幼児期における運動は、体力や運動能力の向上に加え、健康的な体の育成や意欲的な心の成長にも非常に重要であり、生涯にわたって豊かな人生を送るための基盤づくりとして、大きな意義があると考えられる。

本事業では、徳島ヴォルティス株式会社が運動プログラムの実施を行い、大塚製薬株式会社が栄養面の監修や情報提供を行い、美馬市がこども園や保護者への周知やどの役割を分担し、官民が一体となって事業に取り組むものである。

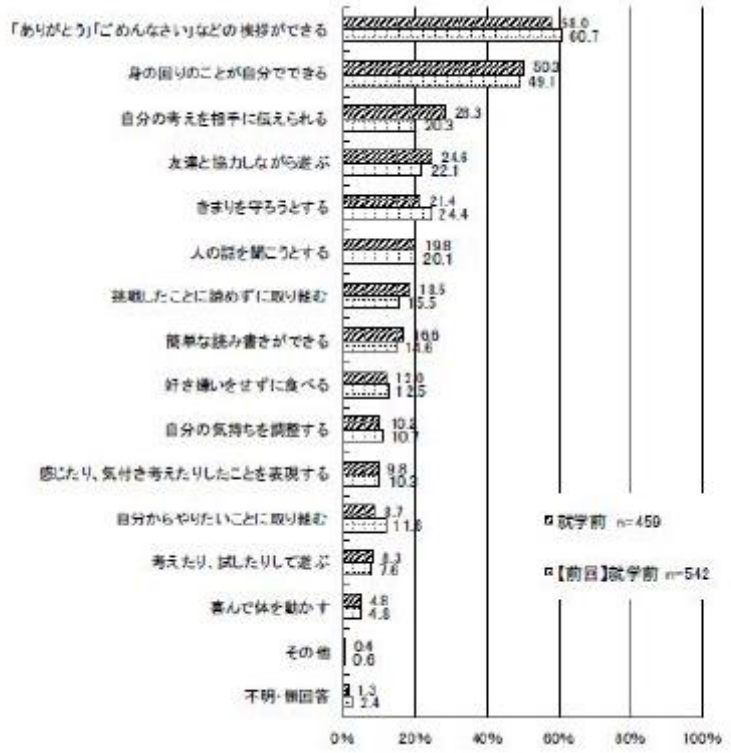
なお、美馬市が平成３１年に実施した就学前児童の保護者を対象とした調査結果では、「子どもの性格や行動」、「食事や栄養」、「子どもの遊ばせ方やしつけ」などにおいて悩んでいることが明らかになっている。また、「感情のコントロール」や「コミュニケーション能力」などの社会適応能力の発達を期待していることも明らかになっている。

図表 1　子育てに関して日頃悩んでいることや気になること



出所：第２期美馬市子ども・子育て支援事業計画（令和２年度～令和６年度）より抜粋

図表 2　子どもが小学校に入学するまでに身につけさせたい力



出所：第 2 期美馬市子ども・子育て支援事業計画（令和 2 年度～令和 6 年度）より抜粋

１．本事業の実施概要

（１）本事業のターゲット

本事業のターゲットは、美馬市内にある３つの公立の幼保連携型認定こども園（以下「こども園」という。）の５歳児、１０２人である。これらのこども園は、０歳児から小学校就学前の子どもに教育、保育を行っており、市内３地区（美馬地区、江原地区、穴吹地区）にある。それぞれの認定こども園では「美馬市幼児教育・保育推進計画」に基づいた教育、保育を実施しながら、地域の特色を活かした取り組みも行っている。

子どもを取り巻く環境としては、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹や地域での集団遊びが少なく、また、外遊びができる空きスペースや公園なども限られているため集団遊びや外遊びがなされていない状況である。さらに美馬市では公共交通機関が乏しいため、また、保育所・幼稚園の統廃合により登園距離が増加したことなどから、こども園への登園は保護者の自家用車による送迎がほとんどであり、日常生活での運動量が限定的となっている。

最近のこども園を利用している子どもの傾向として、「じっとしていられない」「集団での遊びが苦手」など個別での支援が必要な子どもの割合が増加している。また運動面においても「両足跳びができない」「姿勢を正して椅子に座ることができない」「一段ごとに足を揃えなければ階段を降りられない」などの子どもが増えてきており、かつては、幼児期に身につけていた動きができず、怪我につながっていることもある。さらに、徳島県全体での課題であるが肥満傾向にある子どもが増加している一方で、子どもの発達的特徴を理解している専門家による栄養指導や運動指導の場や人材も十分に確保できておらず、対応が不十分な状況にある。

（２）ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）

本事業では、運動が苦手、あるいは、あまり運動をしていない子どもたちに対して、なぜ運動をしていないのか、その理由（障壁）を解決することで運動をする子どもを増やしていく、運動を好きになっていく子どもを増やしていくことを目指す。

■子どもの運動機会を妨げている要因（仮説）

・専門的指導ができる人が少ない。
→プロクラブチームのコーチに教わることができる。

・そもそも「運動すること、体を動かすこと」に関心を持たせることが難しい。
→「遊び」を通じて運動させることにより、子どもが取り組みやすい。

・テレビ、ゲーム、等、体を動かさない遊びが増えている。
→「遊び」で体を動かすことにより、体を動かす楽しさを体感できる。

・運動する場所がない。
→こども園で実施できるので子どもの負担が少ない。

・嫌いな運動はやらない。
→遊びを通じて様々な動きを覚える。

・家庭での運動をさせる機会が少ない
→こども園での体験を通じて、保護者を含めて家庭全体で運動習慣を身に着けることができる。

・食べ物の好き嫌いによる食事に対する意欲の低下
→栄養学の専門家から栄養監修を受けられる。

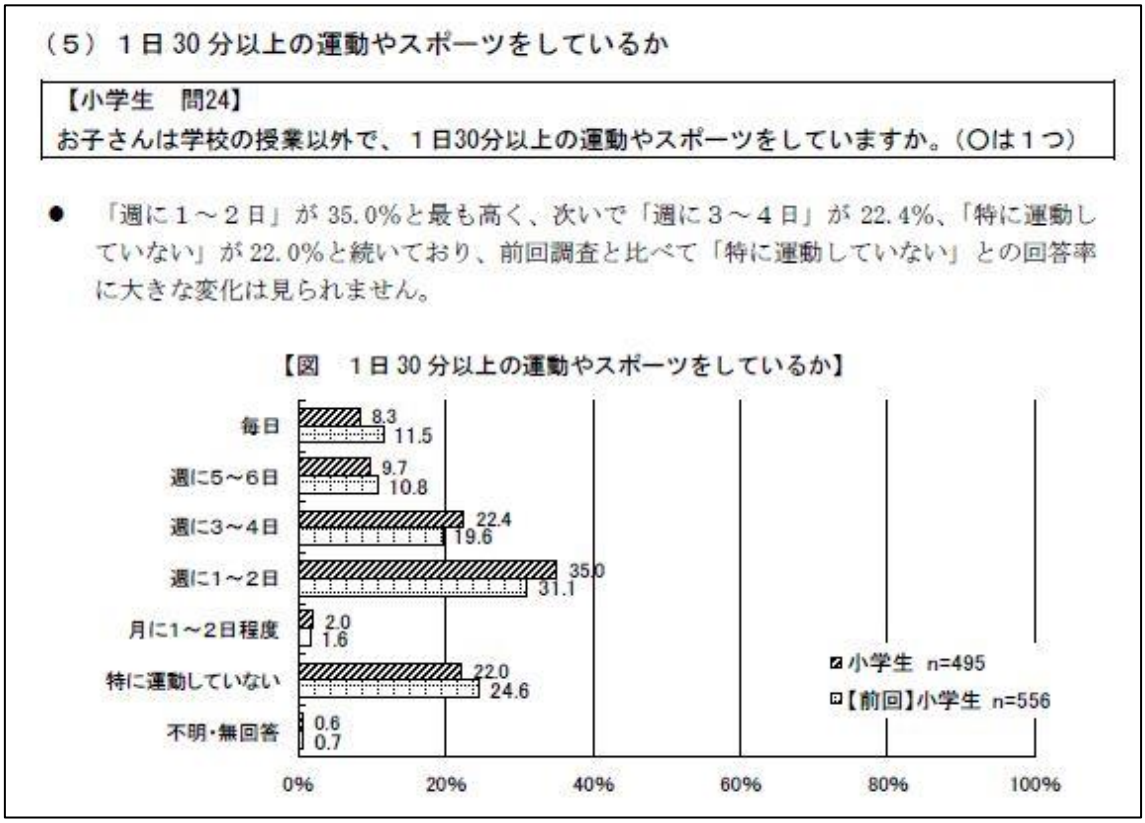
（３）本事業で期待される効果

５歳から９歳は、神経系が急速に発達する時期（大人の８０％まで）であり、この時期に様々な遊び(運動)を経験することで、脳が刺激され、運動神経も発達すると言われている。積極的に遊ぶ子どもは「やる気」「我慢強さ」「友達関係が良好」「社交的」など前向きな性格が期待できる。

本事業では、5 歳児に対して、健康の三原則「運動（ここでは遊び)」「栄養」「休養（ここでは睡眠)」を上手く取り入れたプログラムを提供し、プログラム実施前後のアンケートを活用することによって結果を見える化する。

現在の美馬市では、１日３０分以上の運動やスポーツを月に２日未満の小学生児童の割合が２４％であり、このプログラムを実施することにより、特に未就学の段階から、子どもの運動習慣の定着化を図る。

図表 3　１日３０分以降の運動やスポーツをしているか



出所：第２期美馬市子ども・子育て支援事業計画（令和２年度～令和６年度）より抜粋

２．本事業の実施内容

（１）事業の実施概要

① ターゲット

未就学児及びファミリー層
・美馬市内の認定こども園（３園）の園児　　５歳児　１０２名
　江原認定こども園　４０名
　美馬認定こども園　３７名
　穴吹認定こども園　２５名

② プロジェクト実施内容

市内３か所の認定こども園５歳児（１０２人）を対象に、Ｊリーグサッカーチームに所属するプロのコーチによる運動プログラムを実施する。プログラムは、遊びの中から基本的な運動を身につけさせるもので、月２回の集団指導と自宅において保護者との遊び（運動）を３ヶ月間実施する。

実施概要は以下の通り。

【集団指導】
・１回あたりのプログラム実施時間：４５分／指導者となるコーチの人数：３名で実施する。
・集団指導（月２回、３ヶ月間）は、日本スポーツ協会の「アクティブチャイルドプログラム」を中心にボール遊びも入れる。
・プログラム実施に伴い、消費カロリーの増加が見込めるため、それを補うためのバランスの良い栄養補助食品と、熱中症予防のためのイオン飲料を配布する。

【自宅での保護者との遊び（運動）】
・自宅でのプログラムについては、園児が保護者と取り組むワークブックを作成し配布。自宅では１ヶ月２種目、３ヶ月６種目をワークブックに記載。
・ワークブックの中にチェックシートを作成…１週間に２回以上自宅で保護者と遊びを実行すると１枚シールがもらえる。
・ワークブックの中に遊び（運動）のみならず、栄養面においても地元特産品を使ったメニューを紹介。・自宅用に保護者と一緒に取組めるようコーチの動画撮影を行い、ＱＲコードを作成し、配布。

（２）事業の実施結果

実施プログラム状況

図表 4　実施プログラムの状況

◇先生も一緒になって園児たちと遊ぶことによって、より盛り上がりが見られる

図表 5　家庭用動画、ワークブック

◇ワークブック（表紙）

◇家庭用にＱＲコードを作成し動画を配信

◇家庭でも保護者と一緒にプログラムが出来るよう YouTube で配信

◇保護者と一緒にアプリを活用して栄養について学ぶ

実施プログラム内容

図表 6　実施概要

実施日	実施時間	実施園	担当コーチ	プログラム内容
10月20日	9:00～10:45	江原認定こども園	柘植	からだジャンケン・動物に変身・ボール遊び
	10:15～11:00	美馬認定こども園	本村・奴井名	からだジャンケン・動物に変身・ボール遊び
10月27日	9:00～10:45	美馬認定こども園	柘植	新聞ジャンケン・新聞紙に変身・ボール遊び
	10:15～11:00	穴吹認定こども園	綱田、谷奥	からだジャンケン・動物に変身・ボール遊び
11月13日	9:00～10:45	穴吹認定こども園	柘植	新聞ジャンケン・新聞紙に変身・ボール遊び
	10:15～11:00	江原認定こども園	谷奥、橋本	新聞ジャンケン・新聞紙に変身・ボール遊び
11月17日	9:00～10:45	美馬認定こども園	柘植	ケンパー・言うこと一緒やること一緒・ボール遊び
	10:15～11:00	穴吹認定こども園	本村、奴井名	ケンパー・言うこと一緒やること一緒・ボール遊び
11月20日	9:00～10:45	江原認定こども園	柘植	ケンパー・言うこと一緒やること一緒・ボール遊び
	10:15～11:00	美馬認定こども園	牛尾、大西	キャッチ・ペアキャッチ・ボール遊び
12月4日	9:00～10:45	穴吹認定こども園	柘植	キャッチ・ペアキャッチ・ボール遊び
	10:15～11:00	江原認定こども園	谷奥、大西	キャッチ・ペアキャッチ・ボール遊び
1月13日	9:00～10:45	江原認定こども園	柘植	相撲遊び・ひよこの闘い・ボール遊び
	10:15～11:00	美馬認定こども園	綱田、橋本	相撲遊び・ひよこの闘い・ボール遊び
1月15日	9:00～10:45	美馬認定こども園	柘植	紙鉄砲・だるまさんが転んだ・ボール遊び
	10:15～11:00	穴吹認定こども園	谷奥、牛尾	相撲遊び・ひよこの闘い・ボール遊び
1月19日	9:00～10:45	穴吹認定こども園	柘植	紙鉄砲・だるまさんが転んだ・ボール遊び
	10:15～11:00	江原認定こども園	本村・奴井名	紙鉄砲・だるまさんが転んだ・ボール遊び

３．本事業の実施体制

（１）本事業の実施体制

本事業の実施体制は下記の通り。

図表 7　実施体制

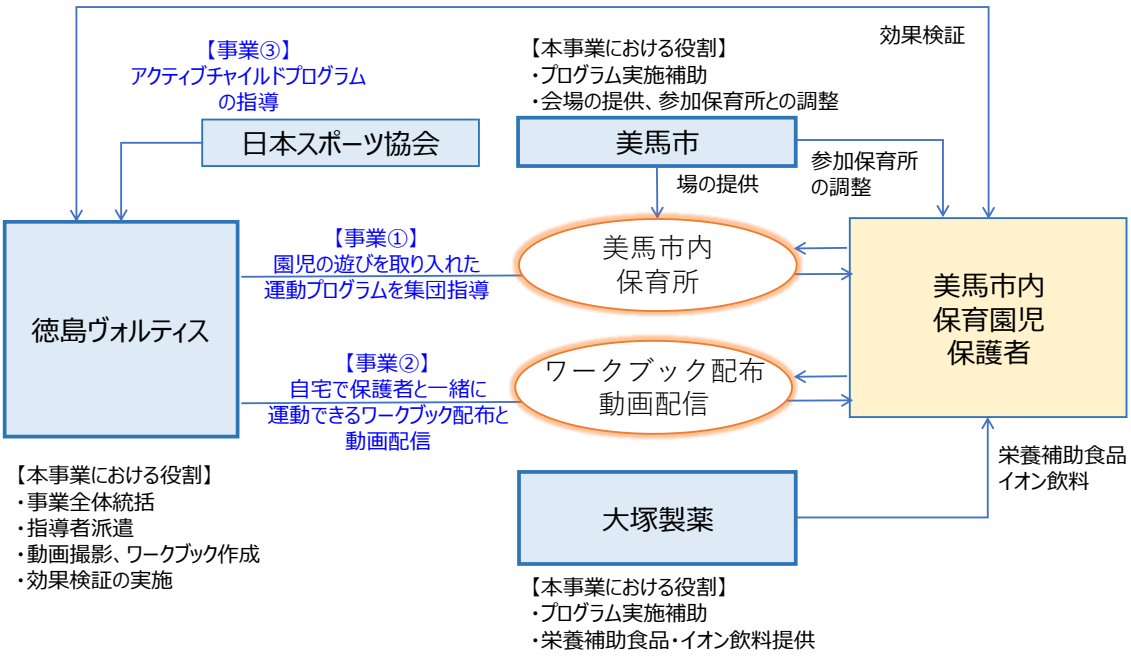
実証フィールド	美馬市内幼保連携型認定こども園３園の５歳児、１０２人
代表団体	*徳島ヴォルティス株式会社
構成団体	*大塚製薬株式会社、*美馬市役所
構成団体以外の参画団体	公益財団法人日本スポーツ協会、株式会社モルテン

※　「*」は Sport in Life コンソーシアム加盟団体

（２）本事業の実施スキーム

本事業における代表団体、構成団体、その他参画団体の役割は下記の通り。

図表 8　実施スキーム



株式会社モルテン・・・プログラム用ボールの提供

４．事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）

（１）効果検証方法

こども園の先生用に「クラス担任アンケート」を作成し、プログラム開始前、終了時に配布・記入してもらうことで、一人ひとりの変化を把握する。

保護者用に「保護者用アンケート」を作成し、同様に開始前、終了後に配布・記入してもらうことで、特に家庭での子どもの変容を把握する。

＜クラス担任アンケート＞

A 遊びの種類　1. 静的　2. どちらかというと静的　3. どちらかというと動的　4. 動的

B 社交性　　1. 低い　2. どちらかというと低い　3. どちらかというと高い　4. 高い

C ルール　1. 守れない　2. どちらかというと守れない　3. どちらかというと守る　4. 守る

＜保護者用アンケート＞　　（それぞれ１つに○）

項　　目	わからない	できていない	ほぼできている	できている
決まった時間に起床する	1	2	3	4
決まった時間に就寝する	1	2	3	4
毎朝、朝食を食べている	1	2	3	4
野菜を食べられている	1	2	3	4
水分が十分摂れている	1	2	3	4
毎日お風呂に入る	1	2	3	4
外でよく遊ぶ	1	2	3	4
ひとりで遊んだ後の片付けができる	1	2	3	4
お子様とその日の出来事などよく話をしている	1	2	3	4
お子様と一緒に遊んでいる	1	2	3	4

図表 9　クラス担任用アンケート調査票（事前）

クラス担任アンケート

☆開始前

記入日：　　年　　月　　日

○○認定こども園

子ども達の園での様子について、それぞれの質問に４段階でグレーディングしてください。
また、下表の「園でよく遊ぶ友達」については、およその人数をご記入ください。

A：遊びの種類　　1．静的　2．どちらかというと静的　3．どちらかというと動的　4．動的

B：社交性　　1．低い　2．どちらかというと低い　3．どちらかというと高い　4．高い

C：ルール　　1．守れない　2．どちらかというと守れない　3．どたらかというと守る　4．守る

番号	名前	A．遊びの種類	B．社交性	C．ルール	園で本当によく遊ぶ友達（左記の番号）
例	徳島　太郎	3	4	2	1、2、6、9、15
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					

図表 10　クラス担任用アンケート調査票（事後）

クラス担任アンケート

☆終了後

記入日：　　年　　月　　日

江原認定こども園

子ども達の園での様子について、それぞれの質問に４段階でグレーディングしてください。
また、下表の「園でよく遊ぶ友達」については、およその人数をご記入ください。

A：遊びの種類　　1．静的　2．どちらかというと静的　3．どちらかというと動的　4．動的

B：社交性　　1．低い　2．どちらかというと低い　3．どちらかというと高い　4．高い

C：ルール　　1．守れない　2．どちらかというと守れない　3．どたらかというと守る　4．守る

番号	名前	A．遊びの種類	B．社交性	C．ルール	園で本当によく遊ぶ友達（左記の番号）
例	徳島　太郎	3	4	2	1、2、6、9、15
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					

図表 11　保護者用アンケート調査票（事前）

保護者用アンケート

☆開始前

記入日：令和　　年　　月　　日

○○認定こども園

園児名：

保護者名：

保護者の皆様へ

「ヴォルティス 元気っず プログラム」では、プログラム開始前と開始後のお子様の変化を分析し、今後のプログラム等に反映させていきたいと考えております。
お忙しいところ恐れ入りますが、お子様のご自宅での様子について、それぞれの質問に４段階でお答えいただきますようお願いいたします。
なお、個人情報（名前等）については、美馬市において適切に管理いたします。

（それぞれ１つに○）

項　　目	わからない	できていない	ほぼできている	できている
決まった時間に起床する	1	2	3	4
決まった時間に就寝する	1	2	3	4
毎朝、朝食を食べている	1	2	3	4
野菜を食べれている	1	2	3	4
水分が十分摂れている	1	2	3	4
毎日お風呂に入る	1	2	3	4
外でよく遊ぶ	1	2	3	4
ひとりで遊んだ後の片付けができる	1	2	3	4
お子様とその日の出来事などよく話をしている	1	2	3	4
お子様と一緒に遊んでいる	1	2	3	4

その他ご意見・お気づきなど

●撮影等肖像権に関する取扱いについて

「ヴォルティス 元気っず プログラム」でのお子様の様子を様々な報道機関が取材にくることが予想され、また、美馬市においても広報誌や広報みまTVにて掲載や放映を行いたいと考えております。
つきましては、当該プログラムにおいて、主催者、協力機関、報道機関等により撮影された静止画・動画の公開について、次のどちらかに○印をお願いします。
御理解と御協力のほどよろしくお願いいたします。

私は、子どもの保護者として上記、撮影等肖像権の使用について　（　）承諾します。

（　）承諾しません。

※令和2年10月19日（月）までに担任へご提出ください。

図表 12　保護者用アンケート調査票（事後）

保護者用アンケート

☆終了後

記入日：　　年　　月　　日

○○認定こども園

園児名：

保護者名：

保護者の皆様へ

「ヴォルティス 元気っず プログラム」では、プログラム開始前と開始後のお子様の変化を分析し、今後のプログラム等に反映させていきたいと考えております。
お忙しいところ恐れ入りますが、お子様のご自宅での様子について、それぞれの質問に４段階でお答えいただきますようお願いいたします。
なお、個人情報（名前等）については、美馬市において適切に管理いたします。

（それぞれ１つに○）

項　　目	わからない	できていない	ほぼできている	できている
決まった時間に起床する	1	2	3	4
決まった時間に就寝する	1	2	3	4
毎朝、朝食を食べている	1	2	3	4
野菜を食べれている	1	2	3	4
水分が十分摂れている	1	2	3	4
毎日お風呂に入る	1	2	3	4
外でよく遊ぶ	1	2	3	4
お子様と一緒に遊んでいる	1	2	3	4
お子様とその日の出来事などよく話をしている	1	2	3	4
ひとりで遊んだ後の片付けができる	1	2	3	4

☆終了後の保護者の方のご感想（このプログラムを実施して）　（それぞれ１つに○）

項　　目	わからない	いいえ	ほぼできた	はい
お子様に変化はありましたか	1	2	3	4
体を動かす遊びが好きになりましたか	1	2	3	4
お子様と遊ぶ機会が増えましたか	1	2	3	4
食事の好き嫌いが減りましたか	1	2	3	4

その他ご意見・お気づきなど

※令和３年１月２５日（月）までに担任へ提出をお願いします。

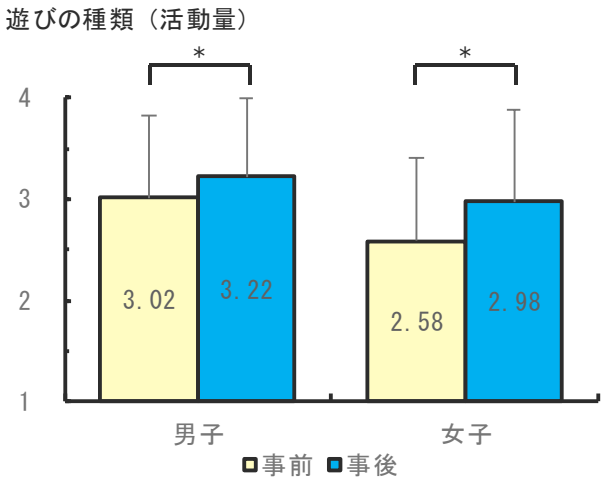
（２）効果検証の結果

①こども園における遊びの内容や社会性に関する改善効果

【遊びの種類】

- プログラム実施前後で比較すると、遊びの種類（活動量）に関する設問について、1.静的～4.動的と 4 段階でグレーディングして数値化したところ、男子では 3.02 から 3.22、女子では 2.58 から 2.98 へといずれも増加した（$p<0.01$）。

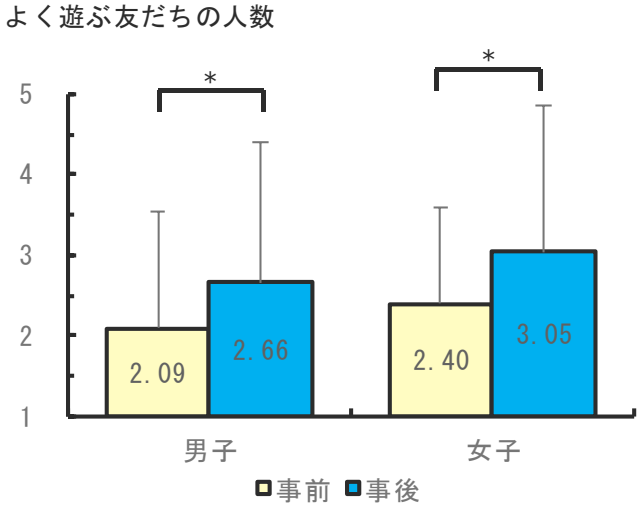
図表 13　遊びの種類（活動量）【N＝102】



【よく遊ぶ友だちの人数】

- よく遊ぶ友だちの人数について、男子は 2.09 人から 2.66 人、女子は 2.40 人から 3.05 人となっており、男女ともプログラム実施後に、より**協同的・組織的な遊びを好む傾向**が見られた（$p<0.01$）。

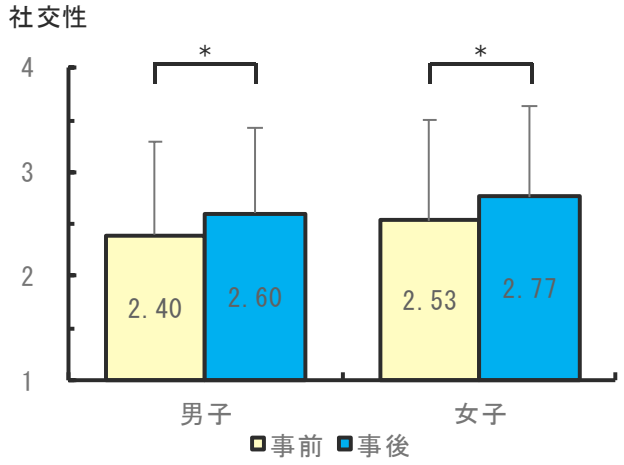
図表 14　よく遊ぶ友だちの人数【N＝102】



【社交性】

- プログラム実施前と実施後を比較すると、社交性に関する設問について、1.社交性が低い～4.高いと 4 段階でグレーディングして数値化したところ、**男子では 2.40 から 2.60、女子では 2.53 から 2.77 へいずれも増加した**（p>0.01）。

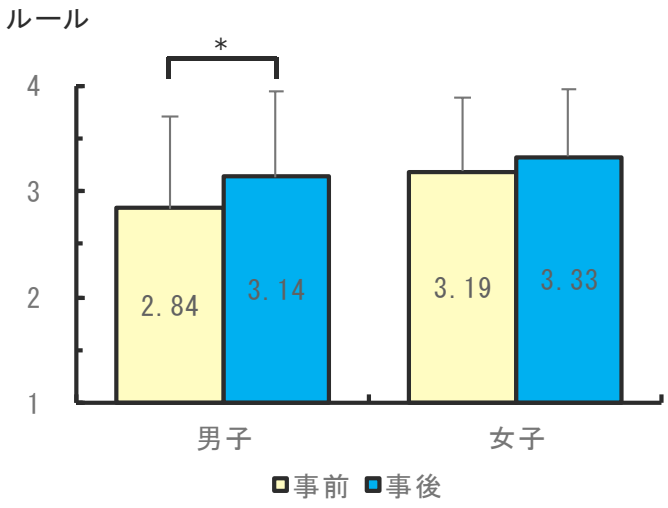
図表 15　社交性【N＝102】



【ルール】

- 決まりやルールに関して、1.守れない～4.守れるについて数値化したところ、男子において 2.84 から 3.14 へ増加した（p<0.01）。

図表 16　ルール【N＝102】

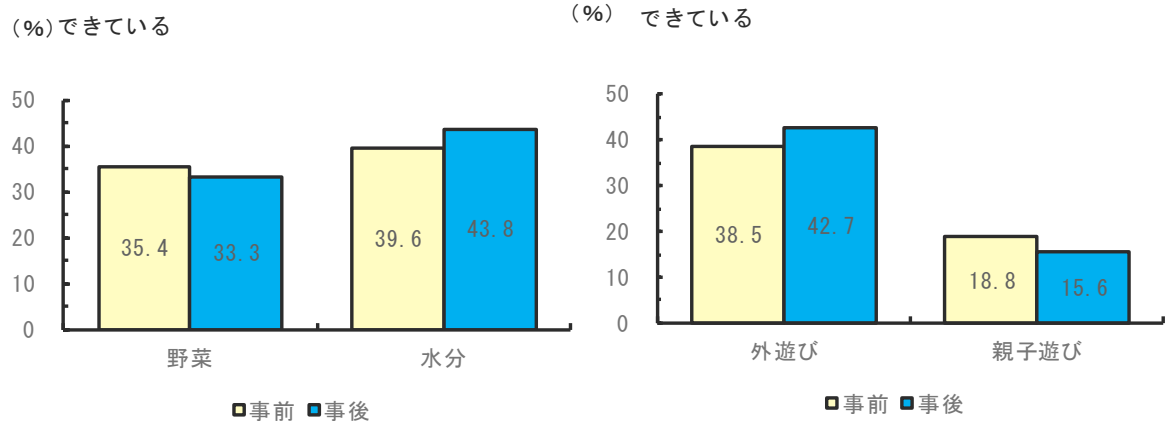


②家庭における生活習慣に関する改善効果

【家庭での遊び・食習慣】

- 家庭での外遊びは、若干増加傾向がみられた。
- 一方、親子での遊びは変化がなく、**本プログラムで提供したワークブックや動画があまり活用されなかった可能性がある。**
- 自宅での食習慣について、プログラム実施前後で比較すると、「(子どもが) 野菜を食べられている」について「できている」と回答した割合は、プログラム実施前後で変化が見られなかった。
- 「水分が十分摂れている」について「できている」と回答した割合は、プログラム実施前後で変化が見られなかった。

図表 17　食習慣、家庭での遊び【N＝102】



図表 18　アンケート結果まとめ

こども園における遊びの内容や社会性に関する改善効果

ターゲット	調査項目	現状	実績	効果検証方法
子ども	遊びの種類（活動量）	2.83	3.12	保育者（クラス担任）を対象とする、事前・事後のアンケート調査結果から比較分析
	よく遊ぶ友だちの人数	2.22	2.82	
	社交性が高い	2.46	2.67	
	ルールを守れる	2.99	3.22	

家庭における生活習慣に関する改善効果

ターゲット	調査項目		現状	実績	効果検証方法
子ども	外でよく遊ぶ	「できている」と回答した割合	38.5	42.7	保護者を対象とする、事前・事後のアンケート調査結果から比較分析
	お子様と一緒に遊んでいる		18.8	15.6	
	野菜を食べられている		35.4	33.3	
	水分が十分に摂れている		39.6	43.8	

５．スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

①スポーツ実施の阻害要因、促進要因（仮説）

本事業の対象（子ども）における、スポーツ実施の阻害要因の仮説は以下の通り。

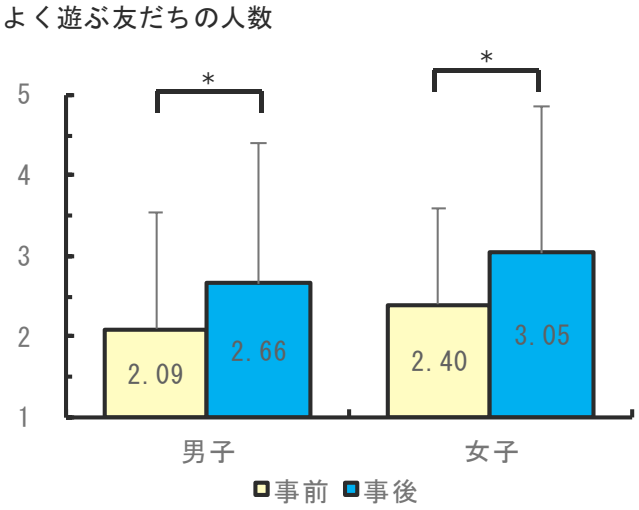
- 少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹や地域での集団遊びが少なくなっている
- 運動できる公園、場所が少ない
- 専門的指導をできる人が少ない
- 家庭での運動をさせる機会が少なく、テレビ、ゲーム等、体を動かさない遊びが増えている
- 嫌いな運動はやらない

②本事業結果を踏まえた分析・考察

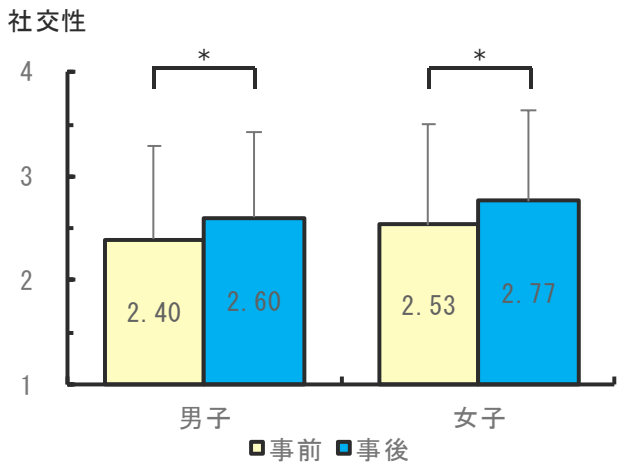
【少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹や地域での集団遊びが少なくなっている】

よく遊ぶ友達の人数が実施後に増えている傾向（平均約 0.6 人増加）や、社交性が高まっている結果（約 0.2 ポイント上昇）を踏まえると、友達との協同的・組織的な遊びを好むようになっていると言える。

図表 19　よく遊ぶ友だちの人数（再掲）【N＝102】



図表 20　社交性（再掲）【N＝102】



【運動できる公園、場所が少ない】

今回の検証では、家庭に帰ってから、親子で体を動かす機会の増加にはつながらなかった。保育園での集団プログラムだけでなく、家庭でもできる運動（少人数、小スペース）を促進させる動画内容、ワークブック内容の工夫などが必要である。

【専門的指導をできる人が少ない】

地域のプロスポーツ団体（徳島ヴォルティス）のスタッフが指導にあたったことにより、専門的な運動の指導がなされるとともに、ワークブックや動画によるフォローアップがなされた。

【家庭での運動をさせる機会が少なく、テレビ、ゲーム等、体を動かさない遊びが増えている】

今回の検証では、家庭に帰ってから、親子で体を動かす機会の増加にはつながらなかった。園庭で先生や保護者と一緒になって遊ぶことの楽しさを覚え、家庭でも保護者と一緒に遊びの楽しさを体感できるよう工夫をすることが必要である。

【嫌いな運動はやらない】

一人ではやらないが、先生はじめ、保護者や園児と集団でやっていると、最初は嫌がっている園児も、徐々に楽しく体を動かすようになったことから、運動に対する心理的障壁を低くすることができた。

図表 21　スポーツ実施の阻害要因、促進要因に関する分析まとめ

スポーツ実施の阻害要因、促進要因に関する分析

	スポーツ実施の阻害要因（事業実施前の仮説）	スポーツ実施の促進要因（検証結果）
子ども	・少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹や地域での集団遊びが少なくなっている	・よく遊ぶ友達の人数が実施後に増えている傾向（平均約0.6人増加）や、社交性が高まっている結果（約0.2ポイント上昇）を踏まえると、**友達との協同的・組織的な遊びを好むようになっている**と言える。
	・運動できる公園、場所が少ない	・今回の検証では、家庭に帰ってから、**親子で体を動かす機会の増加にはつながらなかった。**保育園での集団プログラムだけでなく、家庭でもできる運動（少人数、小スペース）を促進させる動画内容、ワークブック内容の工夫などが必要である。
	・専門的指導をできる人が少ない	・地域のプロスポーツ団体（徳島ヴォルティス）のスタッフが指導にあたったことにより、**専門的な運動の指導がなされる**とともに、ワークブックや動画によるフォローアップがなされた。
	・家庭での運動をさせる機会が少なく、テレビ、ゲーム等、体を動かさない遊びが増えている	・今回の検証では、家庭に帰ってから、**親子で体を動かす機会の増加にはつながらなかった。**園庭で先生や保護者と一緒になって遊ぶことの楽しさを覚え、家庭でも保護者と一緒に遊びの楽しさを体感できるよう工夫をすることが必要である。
	・嫌いな運動はやらない	・一人ではやらないが、先生はじめ、保護者や園児と集団でやっていると、**最初は嫌がっている園児も、徐々に楽しく体を動かすようになった**ことから、運動に対する心理的障壁を低くすることができた。

６．今後の事業展開予定

（１）事業継続や横展開に向けたポイント、課題

【効果検証結果より】

- 保育者の目から見ると、園での子どもの様子はポジティブに変化している。
- 保護者から見ると、家庭では「遊び」「生活習慣」は数値として大きな変化はない。
- 保護者の感想からは「遊び」そのものについてはポジティブな声が聞こえるため、継続実施して家庭での変容も導き出したい。
- 食生活については「数値」、保護者の事後アンケートともに変容はない。

【今後の改善方策】

- 自宅プログラム（ワークブックや遊びの動画）の活用状況（親子による利用頻度など）が把握できれば、さらに分析的な作業が実施可能と思われる。自宅プログラムを充実させる、あるいは、こども園での取り組みを自宅へ持ち帰らせることなどが、今後の課題になると考えられる。
- 食生活については、保護者の理解を深めるために、事前の保護者との勉強会などが必要（先生も含む）。
- 今回のような事業については、社会的課題を解決したい行政、プレーヤーとしてのプロスポーツ団体、そして健康・栄養情報を保有する民間事業者がそれぞれ役割を認識し、課題に向けて取り組むことが重要であると感じた。

（２）次年度以降の事業継続、横展開の計画

令和 3 年度については、美馬市が予算化を行い委託事業として事業継続する予定となっている。また、本年度については、事業対象は３園であったが、次年度については７園（幼稚園３、認定こども園４園）に対象を拡大し、本事業を行う予定である。なお、契約の形態としては PFS（成果連動型委託）を採用する予定である。

PFS で実施する場合には、達成すべき KPI や、それによって見込まれる成果（社会的効果等）を分析・設定することが必要である。本事業は、子どもの運動（遊び）を習慣化することを目的としているが、子どもが運動を習慣化することによって、将来の社会的効果がどんなものがあり、どれくらいの規模になるのかについて市と協議し、定めていく予定である。

美馬市と徳島ヴォルティスは、令和元年度から 20 歳以上の美馬市民を対象とした「ヴォルティスコンディショニングプログラム（VCPG）」を実施している。VCPG では、プログラムによって運動習慣が定着する、運動機能が改善する（介護保険制度内の基本チェックリストの改善）ことにより、美馬市が将来負担する医療費、介護保険料などが削減されることを成果とする「ソーシャル・インパクト・ボンド（PFS 方式の一種）」の方式を採用している。この事業方式を参考にしながら、本事業（元気っずプログラム）では、来年度以降 PFS

スキームの導入を検討する。

（３）今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組み

官民一体となる協働事業として推進していくためには、民間事業者及び行政とのマッチングの場の提供や斡旋などが必要である。

自治体側は、運動、スポーツの実施率を高めることによって、市民の健康増進が図られることを目的としているが、スポーツの実施阻害要因の解消に対しては、取りうる施策・事業が限定的である。

一方、民間事業者側では、様々なサービス、ソリューションを有しているが、効果検証やマーケティングの不足によって、商品化につなげられないケースが存在する。

官民双方が共通の目的に向かってそれぞれの役割を担うことが、Sport in Life プロジェクトの推進、拡大においては不可欠であると考えるため、SIL 事業においても、そのような意向を持つ民間事業者と行政（自治体）を結び付け、協業に向けた相談ができる場づくりを期待する。

７．終わりに

コロナ禍の中での事業展開ということもあり、感染防止に細心の注意を払う必要があった。コロナ禍でなければ、さらなる広がりを持たせた事業展開が可能となる。

現在、徳島ヴォルティス、美馬市、大塚製薬で様々な事業展開を行っており、特に美馬市版 SIB ヴォルティスコンディショニングプログラムについては、美馬市民の方々からも好評をいただいている。コンディショニングプログラムについては成人向け、今回の元気っずプログラムについては未就学児であるが、残るは小学生・中学生・高校生等が対象として考えられる。美馬市民の全年齢に対して、どのように対応するかが課題となってくる。

今回の元気っずプログラムは、対象が未就学児ということもあり、関係者が多岐にわたったため、事業の内容を理解してもらうのに苦しむ場面があった。来年度以降、プログラム内容の改善とともに、より市民に対して効果や必要性を丁寧に説明してくことが必要であると考える。

参考資料　アンケート調査結果詳細

＜実施後、保護者コメント＞
◇以前から体を動かすのは好きだったので、外遊びだけではなく、体幹や瞬発力などを鍛えられるプログラムで、よりしっかりとした運動ができて、とても子どものためになると思います。今後も期待しております。

◇食事の好き嫌いが減ったかはわかりませんが、ご飯をいっぱい食べるようになったし、早く寝てくれるようになったとおもいますし、眠りに入る時間が短くなりました。

◇お世話になりありがとうございました。子どもが、内容やコーチに心をつかまれていました。

◇とても楽しんで取り組んでいました。家でも「今日はヴォルティスキッズがある！」と嬉しそうに話していました。身体を動かす機会を作っていただけて良かったです。ありがとうございました。

◇コーチが教えてくれた遊びを家に帰ってもお兄ちゃんと一緒に楽しそうにしていました。ヴォルティス元気っずの日を楽しみにしていました。体を動かすことやサッカーのことが好きになりました。とても良い体験ができていたのですごく良かったです。ありがとうございました。

◇小学校でも行いたいと言っておりました。

◇良く帰って来て元気っずのことを話してくれました。とても楽しんでおりました。

◇小さな頃から食事という事が嫌いで今も変わりませんが少しずつ食べる量も増え本人も食べようという気持ちは出てきています。今回のプログラムで体を動かす事が今まで以上に増して、サッカーボールを買い家族で時間のある時は、運動をする様になりました。もう少しあたたかくなれば、もっと外に出て遊ぼうと思います。「ヴォルティス元気っずプログラム」は、子供は毎回楽しかったみたいでとても良い機会でした。ありがとうございました。

◇大きな変化は分からないけど、キャッチボールや、サッカー、ヴォルティスに少し興味を持ったようです。ありがとうございました。

◇以前と比べてよりいっそう体を動かす遊びが好きになった。

◇身体をおもいっきり動かすという面では良かったと思います。なかなかサッカーボールで遊ぶ機会もないため。生活習慣を変化させるためには、普段からの親の意識の在り方が大切で、子どもいかに意識づけさせるように上手にもっていくかが大事かなと思います。大人数での外部からの指導者による運動という貴重な経験をありがとうございました。

◇元気っずプログラムがあった日は、子どもの方から「こんなことがやったよ！！」教えてあげる、一緒にやろう！」と誘ってくれました。仕事や家族思う様に対応してあげられていなかったので思うので、子に悪かったなと思います。

◇家で運動の内容をよく話してくれました。楽しみながら運動できたんだと思います。ヴォルティスも身近に感じられ優勝も喜んでいました。

◇よく遊びや、その日に行った事をたのしそうに話すようになりました。

◇あまり変化がなかったように思います。

◇元々、体を動かすのが好きなのでプログラムをしたから変わったは分かりますが、歌手の踊りをすぐマネて以前より踊ったり、プログラムでした内容を家でもして見せてくれたりします。

◇以前に比べると、意識して嫌いな物を１口は食べてようとする姿が見られるように、事細かく報告をしてくれるようになりました。ヴォルティスの日は、その日に行った事をいつも以上に話をしてくれ、楽しかったんだという様子がうかがえます。

◇とても楽しそうにしていました。ヴォルティスのことにも関心をもち、ニュース等も持ち、ニュース等も自発的に見ていました。家でも元気っずの話をよくしていて、子どもにとって良い経験になったと感謝しています。

◇（食事の好き嫌いが減りましたかの質問に対して）月・金に陸上クラブ。木・土にスポーツクラブで活動している為、変化が分からず「分からない」に記入しましたが、毎回「ヴォルティス」の時間は楽しかったようでした。そして運動をする事で食べる量が増え、免疫がつき風邪もひかなくなりました。ゴールデンエイジの期間はとても大事だと思うので今後もこのような活動を続けていきたいし、小学校に行ってもこの様な取り組みを続けてほしいです。

◇ヴォルティス元気っずプログラムを通して、以前より積極的に外へ出て遊ぶようになりました。自転車に乗ったり、身体を動かすあそびをしたりするようになりました。親子で一緒に運動するようになりました。

◇今までした事のない運動というか体を動かす事を家でしていた時があって、ヴォルティスのプログラムで覚えていたやつかな？というのを感じました。自然に動かしていたのでいい機会になったかなと思います。

◇公園などに行くと広い場所で教わったゲームをしようと積極的にさそってくれるようになった。遊びのバリエーションが増えた。子どももプログラムがある日を楽しんでいました。（待っていたほど）

◇初めて食べる料理も「食べてみよーかな」と言いながら食べてくれるようになりました。

◇遊びでもまじえながらの元気っずプログラムで子どもに教えてもらいながら一緒にしました！おうちじかんも増えていますし、タイムリーでいいですね！ありがとうございます！

◇女の子の為、ままごとや、塗り絵、砂遊びなどが好きでしたが、自らサッカーやなわとび、鉄棒、外遊び中心になり体を動かす時間が増えました。特にサッカーは、元気っずプログラムの日、必ずまちがうと親が怒られるくらいになりました（笑）父親はサッカーのキャッチボールができて嬉しいみたいです（姉妹のため）

◇ボールを見ると自ら触りに行くようになりました。とてもいい経験ができたと思います。ありがとうございました。

◇毎回楽しみにしていました。これからも続けて欲しいと思いました。

＜担当コーチの活動コメント＞

◇10 月 20 日　9:00～9:45 江原認定こども園①

第1回。もともとの想定では鬼ごっこして終わるつもりでしたが、水分休憩がなかったのと子どもたちの取り組む姿勢や様子を観て、急遽ですがシュートとGKのメニューを入れました。
45分の中に、2つの遊ぶに加えサッカーまでするのはテーマによっては難しいと感じた。個人的にはもう少し全体の方向性がはっきりり分かればやりやすかったのです。今回、自身で決めたテーマとしてはプログラム2つを園やおうちでやってもらえるように色々な設定で行い、最後もそれの件を中心に話をした。

次の人の引継ぎとしては、
・園庭は人数に対して少し使い方を考えないといけない広さで、普段も集団で激しく動いたりすることがないのか、広さがあっても接触のところは配慮が必要かもしません。
・当日、天候は良かったのですが少し地面に湿り気があったのでプログラムによっては室内決行の方が良いかもしれません。
・水分補給の準備がなかったので休憩なしで行いましたが、今後は準備してくれるそうです。

◇10 月 20 日　10:15～11:00 美馬認定こども園①

今回は、第1回目のVGPで美馬認定こども園に行きました。園庭は傾斜がありますが縦に長い感じです。ただ、横は狭く、柵はありますが園の横は道路がありますのでボールを使うメニューの際は注意が必要かもしれません。園児たちはみんな元気よく取り組んでくれました。

◇10 月 27 日　9:00～9:45 美馬認定こども園②

今回はVGPで美馬認定こども園行かせて頂きました。元気がよい子が多かった。新聞ジャンケンではバランスよく片足で立てる子もいた。少し話が利けない子がいたので、今後の進め方を考える必要があると感じた。

◇10 月 27 日　10:15～11:00 穴吹認定こども園①

今日はVGPで穴吹認定こども園に行ってきました。園庭はとても広く指導しやすかったです。真面目な子が多く、話す時は静かに話を聞いてくれました。体じゃんけん、動物に変身をやったが体いっぱい使っていろんな動きをしていたのでよかったです。

◇11 月 13 日　9:00～9:45 穴吹認定こども園②

今回はVGPで穴吹認定こども園に行かせて頂きました。元気がよく話をしっかり聞くことができでいました。新聞ジャンケンでは新聞紙の上に片足でバランスよく立てる子もいた。新聞ジャンケンは以前、他のこども園でも行ないましたが、非常に盛り上がるメニューだと感じた。今回は雨の影響で遊戯室だったのが残念であった。

◇11 月 13 日　10:15～11:00　江原認定こども園②

今日はVGPで江原認定こども園に行ってきました。子どもたちは元気いっぱいでした。新聞じゃんけん、新聞に変身ともに楽しそうにやってくれました。子どもたちはサッカーが好きなようで、早くサッカーをしようとたくさんのこどもから聞けました。ドリブルとシュートを最後に行いました。外が雨だったので遊戯室で行いましたが、園庭で行うときはサッカーの試合をしてあげてもいいのかなと感じました。

◇11 月 17 日　9:00～9:45　美馬認定こども園③

第3回目。いうことといっしょ、やることといっしょでは、声が通りやすくするために、高い位置から、子どもたちと距離をとってマスクを外して行った。
美馬市のスタッフによると回を増すごとに、聞く姿勢が良くなっているそうで、指導していてそれは感じました。あとは楽しいことに対しては活動が先に来てしまうので、話の運び方では最後までお話を聞けなくなってしまうので、アシスタントと協力することで改善できると思います。
サッカー要素を少し強めのメニューを取り入れてみました。泣く子もいましたが、まだできていた方だと思います。

◇11 月 17 日　10:15～11:00　穴吹認定こども園③

今日はVGPで穴吹認定こども園に行きました。種目は言うこと一緒・やること一緒とケンケンパをしました。保護者の方たちも見に来ていましたが、子どもたちがしっかりと話を聞いてくれてスムースに進めることが出来ました。

◇　11 月 20 日　9:00～9:45　江原認定こども園③

3回目のプログラムということで、⑤けんぱーと⑥いうことといっしょやることといっしょの回だった。けんぱーでは、最初は大人の手助けが必要な場面もあったが、慣れると子ども達だけで次々とこなせるようになっていた。いうことといっしょやることといっしょでは、全体的にみると少し反応が遅れている子が多いように感じた。いうことといっしょやることといっしょを毎回言うと、テンポを変えることができず、青野さんが大事とおっしゃっていたバリエーションが減ってしまうので、言わないほうがいいと思いました。

◇11 月 20 日　10:15～11:00　美馬認定こども園④

美馬認定こども園では4回目の元気っずプログラムでした。保護者の方も見学に来られていた。11月下旬とは思えないほど、暑かった。休憩はこまめに取りながら、運動量を考えながら行った。キャッチのメニューでは指をはじめから掴んでしまう子どもたちも見受けられたが、コーチや先生が声をかけてくれ、何回かやるにつれて少しずつできていたように思う。子どもたちは元気でよく話も聞いて、楽しくメニューに取り組んでくれました。今後保護者見学や来訪者がいる場合はその方たちにも子どもたちが楽しんでいる姿をみてもらえるように、立ち位置や声の大きさなどを考えていければと思う。

◇12 月 4 日　9:00～9:45　穴吹認定こども園④

VCPで穴吹認定こども園に行きました。4回目のプログラムとなりました。子どもたちは話をしっかりと聞き元気よく取り組んでくれてていました。キャッチのメニューでは最初少し苦戦している子もいましたが少しずつ理解しできるようになっていました。

◇12 月 4 日　10:15～11:00　江原認定こども園④

江原認定こども園では4回目のプログラムとなりました。子どもたちは相変わらず元気よく活動してくれました。キャッチのメニューでは理解が少し難しそうな子もいたが、コーチや先生方の声かえでやるにつれて理解しながら楽しく取り組んでくれた。ペアタッチはみんな楽しく積極的に取り組んでくれた。江原認定こども園は園庭が少し狭く、夢中になって追いかけたり、するとぶつかったり、こけてしまったりする子がいたので、そこへの配慮は考えていきたい。

◇2021 年 1 月 13 日　9:00～9:45　江原認定こども園⑤

今日は江原認定こども園に行ってきました。雪の影響もあり江原認定こども園の遊戯室でしました。子供達は話を静かに聞いてくれたので、相撲遊び、ひよこの闘いも理解するのも早く指導しやすかったです。相撲遊びでは片足立ちなどをやりました。ひよこの闘いでは先生やコーチ対子供達をしました。

◇2021 年 1 月 13 日　10:15～11:00　美馬認定こども園⑤

今日は美馬認定こども園に行ってきました。相撲遊びとひよこの闘いの2種目を行いました。相撲遊びでは、片足を上げて行うのと、後ろ向きになってお尻で押し合うバリエーションを加えました。ひよこの闘いは最初に動きの確認をし、子どもたちで勝負、先生と子どもたちで勝負の2パターンしました。子どもたちは楽しそうにしていました。最後はドリブルをして終わりました。話もしっかり聞ける子どもたちで、元気いっぱいに取り組んでくれました。

◇1 月 15 日　9:00～9:45　美馬認定こども園⑤

美馬認定こども園に6回目の元気っずプログラムで行ってきました。紙鉄砲のセッションでは1度鳴らすと新聞紙を元に戻すことが子供たちでは難しくコーチが戻して行った。また新聞紙のどこを持つのか？など何点か自分自身の説明不足もあったので今後気を付けて行っていきたい。

◇1 月 15 日　10:15～11:00　穴吹認定こども園⑥

5回目のプログラムは室内で行った。せっかくなので、お家の中でもできるような遊びをメインに実施しました。大人の方はうまく盛り上げてくださったので、いいセッションになった。室内ではあったが、運動量もしっかり確保できたと思う。

◇1 月 19 日　9:00～9:45　穴吹認定こども園⑥

・だるまさんがころんだ
子どもたちでグループを作って行いました。

・紙鉄砲
自分で直すことができない、音が鳴らないのは今後の課題です。ACPの方に聞いてもいいと思います。

◇1 月 19 日　江原認定こども園⑥

VGPで江原認定こども園行きました。紙鉄砲とだるまさんが転んだをしました。紙鉄砲は一度行うと戻す手間だったり鳴らないなどあったので少し改善が必要だったなという印象です。だるまさんが転んだに関しては、みんな楽しそうで良かったと思います。

以上